

主体的な英語学習者を育てるための授業デザイン

東山中学・高等学校

中村 憲幸(英語科)

実践背景

現状 中高一貫校男子校で、6年間もあずかっているにもかかわらず英語が不得意あるいは嫌いになってしまう生徒が少なくない。

仮説 英語をツールとして意識させる(内発的動機を高める)ことで継続的な学習ができ、英語が不得意あるいは嫌いな生徒が減るのではないか。

授業作りのねらい(中1～現在に至る)

- ①オーセンティックな英語に触れる
- ②英語の学習と①とを結びつける
- ③飽きさせない

中学1年～高校1年までの取り組み

多読×英文法を中心。⇒英文法は洋書を読むためのもの、英語は洋書を読むためのツールという初期の意識付けが奏功した。

今年度(高校2年生)の実践内容

対象クラス: 高校2年中高一貫(3クラス111名)

特徴: 受験勉強熱が高まりつつある

実践内容: リーディングを軸にしつつも、さらに学習動機を高めるために様々な授業内容・形式を用いた。

【ベースの授業内容】

- ・リーディング(講義)
- ・多読(読む時間を必ず週に1コマ作って図書館で実施)

【今年度から取り入れた活動】

- ・英作文(=瞬間英会話)(演習+講義)
- ・探究「的」授業(リーディング→個人で調べ学習→プレゼン)
- ・入試問題(演習→講義)
- ・オンライン英会話(希望者のみ)
- ・有名文学作品に触れるゼミ(希望者。講義)

【英語の授業の枠組み】

- ・コミュニケーション英語A(中村が担当): 週に4単位
→リーディング、英作文、入試問題演習、探究「的」授業など
- ・コミュニケーション英語B/C(別の教員が担当): 週に2単位
→1時間は多読、もう1時間はリスニングとプレゼンテーション
- ・8限授業(希望者。もう一人別の教員が担当): 週に1単位
→有名文学作品に触れるゼミ形式。かなりハイレベル。

☆中学までは2人の教員、高校からは3人の教員で役割分担

☆英語学習をあくまで情報収集・情報発信のためのスキルの涵養と意識させる

☆オーセンティックな英語に触れる機会をできる限り増やす

取得データおよび検証方法

・12月に実施した授業についてのアンケート(学習動機・学習観・面白い/有意義と感じた内容などについて)
⇒生徒の学習動機・学習観、内容に関する意見を吸い上げる。

・生徒の自発的な行動や他学年との英語の成績の比較
⇒肝心の英語力を涵養できているのか判断する。

結果

①英語に対する学習観

| 項目 | 回答数(n) | 割合(%) | 平均偏差値 (11月進研模試) |
|----------------|--------|---------|--------------------|
| 好き | 32 | 34.41% | 69.88 |
| どちらかと言えば好き | 33 | 35.48% | 64.85 |
| どちらかと言えば好きではない | 25 | 26.88% | 60.44 |
| 好きではない | 3 | 3.23% | 61.33 |
| 合計 | 93 | 100.00% | — |

| 英語を勉強する目的 | 回答数(n) | 割合(%) |
|-----------|--------|---------|
| 大学受験 | 76 | 81.7% |
| 将来英語を使うため | 10 | 10.8% |
| 面白いから | 6 | 6.5% |
| その他 | 1 | 1.1% |
| 合計 | 93 | 100.00% |

⇒約70%の生徒が好きな状態で英語学習5年目を迎えている。
一方、大半の生徒の英語の学習動機は大学受験であった。

②英語力: 通常形式クラスとの成績推移比較、過年度比較(別紙)

③生徒の行動の変化

英検/ TOEFL / IELTSの自主的受験

観光ボランティアの企画・運営

海外研修(学校外のもの)への参加

他言語の習得(イタリア・ドイツ・ロシア・中国・フランス・韓国など)

④生徒が面白いと感じたこと

| 面白かった取り組み(複数回答) | 回答数(n) | 取り組みが面白いと感じた理由(自由記述を分類) | 回答数(n) |
|--------------------|--------|-------------------------|--------|
| (1) リーディング | 51 | (1) 新たな知識を得られる | 42 |
| (2) 英作文 | 39 | (2) 成長を実感できる | 23 |
| (3) 多読 | 31 | (3) 将来や実用につながる | 18 |
| (4) 入試問題 | 26 | | |
| (5) プレゼン等スピーキングの機会 | 23 | | |

考察と今後の課題

考察

☆中学の段階で洋書を読むこと(オーセンティックな英語)が英文法等の英語学習の動機となったことはその後の英語学習の継続と英語力の涵養に深くかかわっていると考えられる。

☆高校では、さらにスピーキングや、英作文(瞬間英会話)といったアウトプットが英語学習の動機に加わり、また、リーディングでも新たな知見を得られるような文献を与えることで好奇心が高まっている。

☆アンケート結果では大半の生徒が英語学習の目的は大学受験としていたが、面白いと感じた理由を見ると、内発的動機も高まっているように感じる。

今後の課題

30%程度の生徒が、英語を嫌いになってしまった。また、大学受験が無ければ英語は全く勉強しないと回答した生徒が30%程度いた。苦手意識の克服の一助となる授業デザインの必要性を感じる。
また、生徒の変化を測るよう複数回にわたり同様のアンケートを実施すべきであった。